

女性部意見交換会資料（意見まとめ）

令和5年2月3日実施分

Q 1. 女性部活動も再開されて皆さん喜んで参加されています。でも、コロナがなかなかおさまらない中、今後の女性部活動をどのように進めて行けたらいいのかと思っています。

（津島 日比野鏡子）

A 1. 総務部

コロナ禍での活動再開となりますので、今後とも感染対策をしっかりと行い、安心してご参加いただけるよう努めて参ります。また、今後の女性部活動につきまして、with コロナ時代として、リモート・YouTubeなどの活用を含め、新しい生活様式を用いた様々なイベントを皆様方と共に検討し実践につなげていきたいと思っております。

Q 2. コロナ禍で女性部の活動も縮小される中、様々な工夫でイベントをしていただき、また情報を発信していただき、感謝にたえません。私の地区の女性部は高齢化も進み、しばしば退会される方もみえ残念です。退会した方のご家庭などで引き継ぎで入っていただくのも難しい状況です。これからの女性部を盛り上げられるよう、入部を増やせるような方法を模索中ですが、なかなか案が浮かびません。

（佐屋 大河内美紀）

部員が増やせないことについてです。20年ほど前に代替わりする形で部会員になりましたが、同時期に同じように入られた方が、育児・就職・家業に入る等でほとんどやめていきました。現在、自分の班は最大15名から5名になりました。もう一度加入しませんかとも言えず苦慮しています。具体的にどんな方をお誘いしたらいいか、またどんな方が入会できるのか、入会するとどんないいことがあるのか等、分かりやすく説明しやすい資料があるといいと思います。

（市江 山田茂代）

A 2. 総務部

活動自粛前は女性部活動を広めるため、女性部だよりを広報誌「あまの風」に折り込みをしておりましたが、コロナ禍のためやむを得ず発行を中止しておりました。ですが、今年度より徐々に活動を再開し、新しい生活様式を用いたイベント活動へ取り組みを始めました。このような活動再開に伴い、女性部活動を幅広く地域住民に認知いただき、参加していただけるよう再度、女性部だよりを広報誌「あまの風」に折り込みをしてPR活動を行っていきたくと考えております。また、女性部活動を知っていただくために体験入部などを用いてより身近に感じいただけるようなPR活動も行っていきたいと考えております。

さらに、来年度より女性部役員数が減り、負担が少なくなることも踏まえて女性部役員の皆様からお声がけいただくなど、ご協力の程お願いいたします。

Q 3. 女性部等の組織活動に対してご支援いただけているのは大変ありがたいことと思います。今後の合併に向けて女性部組織も様々な点で変わっていくと思いますが、人の流入がないことには先細りになってしまいます。何とか若い世代のフレミズグループが立ち上げられるようテコ入れが必要ではないでしょうか。

（佐織 松永恵美子）

A 3. 総務部

女性部員の減少と高齢化はとても重要な課題と認識しております。当JAは若い世代を対象に『ときめきレディース』（キャラ弁教室など）を開催しておりました。今後もこのような活動を実践できるよう本部役員の皆様と検討し、若い世代の女性部員獲得やフレミズ組織の設立に繋げて参りたいと思います。

Q 4. コロナ禍で女性部活動も久しぶりに開催されました。寄せ植え教室とフラワーアレンジメント(リース作り)に参加しましたが、参加費が少し高いと思いました。開催される教室の内容もマンネリ化しているように思われます。たとえば、「12月であれば来年の干支の置物に色付けをする」や「一輪挿しに合う花瓶」や「毎日の生活に取り入れたい、元気のでる色(カラー)の講話」など、参加してみたいと思われる内容をもう一度みんなで話し合う機会があればと思います。(立田 濱田恵美子)

A 4. 総務部

女性部活動の活性化に対し具体的なお意見ありがとうございます。開催内容・方法などは参加される女性部員の方々の声が重要であると考えております。身近なものから未来を見据えたものまで、皆さまからのご意見をもとに今後の女性部に必要な活動を内容・予算・会場・講師などの活動計画の観点から、本部役員会で検討、協議しなければなりません。

また、支部単位での話し合いの場を設け、部員の皆さまからご意見を本部役員会にご提起いただけますよう支部長様を中心に取りまとめていただければ幸いです。With コロナ時代を見据えて女性部活動の在り方を考えてまいりますので、ご協力願います。

Q 5. 女性部ですが、各地区何人の方が入会しているのか、人数だけでもわかると思います。(立田 濱田恵美子)

A 5. 総務部

令和5年1月31日現在

【北部地区】

津島支部：33名、永和支部：28名、佐屋支部：39名、立田支部：54名、八開支部：17名、佐織支部：28名、その他：22名

【南部地区】

蟹江支部：21名、十四山支部：40名、飛島支部：30名、鍋田支部：75名、弥富支部：118名、市江支部：40名
となっております。

Q 6. 女性部活動に参加して、多くの体験活動や学びを通して、元気に過ごしてこれたことに感謝です。JAの応援団として、また、自立した女性たちの活躍の場として、今後も女性部が活発な活動を続けられるよう一層のご支援をお願いしたいと思います。(佐織 松永恵美子)

A 6. 総務部

女性部活動への積極的なご参加ありがとうございます。女性部役員の皆様方からのご意見・ご提案をいただき、より一層女性部活動を盛り上げて参りたいと思っております。今後とも女性部活動へのご協力の程よろしくお願いたします。

Q 7. 今年度、私はJ Aのスマホ教室に参加させて頂きました。普段スマホを使ってはいるものの、新しく知ることも多々あって参考になり、有意義な講座でした。J A女性部も昨年度より役員会の案内をLINEでお知らせしたり、YouTubeでの配信などもされており、ますますその頻度は増すばかりかと思われまます。まだ利用されていない方々へのきっかけになるような教室はいかがでしょうか？ (蟹江 村上恵美子)

コロナ禍ではありますが、J A女性部活動を色々考えて下さり、ありがとうございます。健康会議の『おうちdeじょせいbu』も良い考え方だと思いますが、もう少したくさんの方に参加して頂けるといいですね。YouTubeなどなかなか使い慣れない方が多いと思います。私自身もスマホの使い方がよくわからず、参加しにくいのかなと思います。スマホの勉強会の講座があってもいいのかなと思います。(飛島 山田早由美)

先日、支店のスマホ教室に参加しました。皆さん年齢の高い方でしたがとても意欲的に取り組んで見えました。お隣の方が「YouTubeを見れるようになりたいので参加した」とおっしゃっていました。Withコロナに少しずつ社会が変わり始めています。こんなふう楽しんで、目的を持って参加できる教室を少しずつ増やして欲しいと思います。(鍋田 吉川祐美子)

A 7. 総務部

女性部活動の活性化に対し具体的なご意見ありがとうございます。Withコロナ時代を見据え、令和2年度よりYouTubeにてオンライン教室を配信させていただいたりインターネットを使用する取り組みが増えてきました。女性部活動以外でもネットを使用する機会は多くなっていると思います。皆様方がお気軽に女性部活動へご参加していただけるよう、支部長様方と共に検討していきたいと思ひます。

Q 8. 飛島の部員は個人・グループと個々で会員となっているので、女性部活動や役員の選出にも困っています。女性部活動への参加も少ないようにみられます。(飛島 山田早由美)

A 8. 総務部

一部の支部では個人の部員も交えた役員決めの方法も考えております。個人部員向けに案内を出すことは可能ですので、どのように役員を決めるのか、それぞれの支部で検討していただければと思います。また、コロナ禍で女性部活動に不安を感じている方も多ひと思ひます。新しい生活様式を用いた様々なイベントを皆様方と共に検討していきたいと思ひております。

Q 9. コロナ禍で人に会うことがためられる昨今ですが、人との対面はやはり大きな意味があると思ひます。南部地区、北部地区にわかれても会員の総会は行うべきだと考えます(もちろん感染症対策をして)。LINEにおけるメッセージはスルーしがちで、見ている人はいかほどだと思ひます。こんな世の中だから仕方ないと思ひますが、発信しないよりは発信した方がいいかもしれません。会員が見えない中で、一体感がありません。自分の地区の会員すら顔も知らないという事実です。これでは先が見えないし、何をやったらいいかもわからないので、計画が立てられません。唯一グルメクラブに参加し、顔が見えました。ただ、行く先は近場であってもいいと思ひました。美味しい料理を頂き、会員の繋がりを感ぢられるようであればいいと思ひます。J Aの女性の会であればこそ、J Aと会員の横のつながりを今一度考えていただきたいと思ひます。(十四山 岡戸一美)

A 9. 総務部

コロナ禍で活動自粛期間が長く女性部員相互の繋がりが減ってしまったため、「さみしい」・「残念」というお声をいただいたことも事実です。今年度は少しずつ活動を再開していき、以前のように人との繋がりを少しでも感ぢていただけていることと思ひます。今後の活動につきまして、本部役員の皆様と共に検討し、進めて参りたいと思ひております。

Q10. 菜々耕房についての意見です。①北西の風が強いので入口を東側の方へ持って行く。②野菜・花などの精算する場所を北側に移動する。③精算する場所に花などを持ってくる。④風よけに北西に建物を延ばす。⑤米売り場を愛西耕房のように隅っこにする。

(永和 伊藤正子)

A10. 園芸部

ご意見ありがとうございます。

店舗を維持していくには保守修繕が必要となり、毎年大きな費用がかかっております。そのためにも、投資計画を策定し優先順位を付け、計画的な店舗投資に当たっております。①～⑤の工事においては、大変大きな修繕となることから、店舗の立て直し時の参考とさせていただきます。今後の検討課題とさせていただきます。都市計画法の開発許可など建築にかかる法令の兼ね合いもあり現状の店舗を変更することが出来ないものもがございますので、ご理解願います。

Q11. なかなか難しいとは思いますが、菜々耕房（グリーンセンター十四山店）の方にもレンコンの販売量が増えるといいなと思います。

(十四山 江上貴美子)

A11. 園芸部

産直部会の店舗間交流により、津島の産直会員さんに十四山の店舗まで出荷いただいておりますが、会員の高齢化もあり、れんこんの出荷量が増加できておりません。十四山店は津島店とは異なり、2L・Lなど大きなれんこんは売れずに、M・Sなどの需要はありますので、産直品不足時はれんこんセンターより仕入るなど可能な限り対応させていただいておりますのでご理解願います。

Q12. 友人から聞いたことですが、JAで保管してもらっている自家用米をもらいに行く時、10kg単位でしか出してもらえないので、以前のように30kgでも出していただきたいです。

(飛島 山田早由美)

A12. 農産部

令和4年産からの保有米取扱いにおいて、利用者サービスの向上と取扱い業務の効率化に向けて「保管米」で申込みされた保有米については、「白米」（10kg袋）1俵当たり5袋に変更させて頂きました。

主な変更理由については、利用者皆様からの「30kgの米袋は重い」「家族人数減少により30kgは多い」「精米するのが手間」等の要望にお応えする形で取り組んでいます。

また、令和4年4月からの支店地域対応窓口の集約による取扱い業務の効率化がとなります。

取扱い変更之际しては、令和3年の秋および令和4年の春に地区生産組合長会における内容のご説明と周知を実施するとともに、広報誌「あまの風」7月号に変更のお知らせを掲載し、取扱いの円滑な変更に向けて利用者様への早期周知を行ってまいりました。

主食である米の取扱いにおいては、利用者の皆様より多様なご意見を頂きますがご理解を賜りますようお願い申し上げます。

<p>Q13. オペレータを増やすための助成を。 最近、自分で農地を管理する農家は激減していると思います。以前より、オペレーターに依頼している農家も、後継者不足から中間管理機構と契約を進める方が増えていると思います。資金面や設備等で新規のオペレーターになるのが難しいかもしれませんが、長い目で見れば地元での人材の育成になりますし田畑の保全、有効活用につながると思います。何より地産地消で、食糧不安も解消されるのではないのでしょうか。 (鍋田 吉川祐美子)</p>
<p>A13. 農産部 貴重なご意見ありがとうございます。 現状のオペレーター（担い手）については、各市町村の人・農地プランで選定され、地区ごとにゾーニングされています。地域の農地保全、作業効率に努めています。 南部営農受託部会として、旧町村単位で組織されて約 2,500ha の耕作面積を 26 名で請負っています。既存オペレーター（担い手）農家の規模拡大、後継者就農に対し国・県の補助金の紹介、JAからの融資の案内も含め担い手の一助となるよう取り組んでいます。</p>
<p>Q14. 12月中旬、窓口で手続きに行ったところ、待ち人数が3名で私の方には時間がないとのことキャンセルして帰られました。次の方の手続きは書類を記入する際、窓口ですべて記入し事務処理もすべて窓口の職員さんが行なっていました（1人にかかる時間が非常に長い）。時期的に忙しいときだったこともあると思いますが、混みあっている時間だけでも人数を増やしていただくことは出来ないのでしょうか？一人で窓口を担当している職員が気の毒に思えました。 (立田 馬淵秀子)</p>
<p>A14. 金融共済部 窓口の繁忙期においては、窓口担当者がお客様に「お待たせして申し訳ございません」とお時間がかかることをしっかりとお伝えし、支店長・副支店長においても窓口に注意をはかりお客様にご迷惑がかからないよう、気持ちよく窓口を利用していただくためにもお客様への目配りと対応をしております。</p>

<p>その他意見</p>
<p>1. 今年度は少しずつ活動の幅が増え、私自身も生け花教室やお料理教室（鬼まんじゅう作り）に楽しく参加できました。愛西市の文化祭では、筆ペン教室の作品が展示されていました。鑑賞しながら、来年度はぜひ参加したいと思った次第です。 (佐屋 大河内美紀)</p>
<p>2. ペットボトルキャップを集める活動について、地域の会員の方が集まった折にお願いしてみたところ、皆さん多くご協力いただけてダンボール箱いっぱいになりました。声をかけたり、イベントに誘ったりと自分から動いてみるのも大切と感じました。 (佐屋 大河内美紀)</p>
<p>3. 私たちのグループでは秋にコスモス畑を作り、地域の方に季節を感じていただいています。また、付近をドライブすると、その地域のJA女性部の方々の活動で作られたお花畑を多々みかけます。地域の方の癒しにもなり、さらにJA女性部のことも知っていただけるので続けていきたい活動の一つだなと感じました。 (佐屋 大河内美紀)</p>
<p>4. 女性部支部活動で月一回の筆ペン教室と8月には多肉植物の寄せ植え教室を支店2階の会議室で開催し、さらに作品を店内に掲示していただき、感謝しております。 (立田 馬淵秀子)</p>
<p>5. コロナ禍でも今回レンコンやイチゴを使って料理の動画撮影を行いました。今後も定期的にできるといいなと思いました。 (十四山 江上貴美子)</p>